

kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.130

6 | 7
2016



CREATOR'S VOICE 149
三ツ橋敬子
「新☆夏休みオーケストラ」

撮影:末武和人

やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト「日輪の翼」
KAATキッズ・プログラム2016「わかったさんのクッキー」
オルガン・プロムナード・コンサート2016

隔月刊:奇数月15日発行

音楽で命は救えないかもしれないけれど、人と人をつなげる力があるんじゃないか。その力にかけたいと思ったのが、音楽家になりたいと思った瞬間なんです。

三ツ橋敬子の 「新☆夏休みオーケストラ」

神奈川県立音楽堂

三ツ橋敬子 指揮者



中学生で経験した衝撃

——指揮者を目指したきっかけとは。

物心がつく前から、音楽というか音に興味を示していたようです。友だちが音楽教室に行き始めることになって、「あ、私も」と思って、教室に通わせてもらい、ピアノをメインに、ソルフェージュや作曲など総合的に学びました。

実際のところ、音楽家になろうとはまったく思っていないでした。中学生の頃は、法律の勉強をしたいと思っていたんです。でも、音楽教室には通い続けていて、3年生の時に教室の演奏旅行でイスラエルに行くことになりました。

私にとって初めての海外でした。当時、ノーベル平和賞を受賞したイツハク・ラビン氏が首相で、官邸を訪問したんです。昼食会の後、ラビン首相がピアノで音を四つお弾きになった。これをテーマに即興演奏をしてみましようと言われて、私が演奏することになりました。首相はと

ても喜んでくださり、夫人も愛情を込めて抱きしめてくださいました。言葉が通じなくても、音楽が人をつなげることができるんだと、実感しました。

ところが、最後にお目にかかった4日後、首相は反和平派によって暗殺されてしまったんです。これほど平和に尽くされた方が一瞬にして命を散らしてしまふ。法律を勉強して、世の中のために役立つたいという私の思いは、無力感に変わってしまいました。でも、音楽で心が通い合ったことから、音楽で命は救えないかもしれないけれど、人と人をつなげる力があるんじゃないか。その力にかけたい、と思いました。音楽家になりたいと思った瞬間でした。

その頃は、中学校の合唱コンクールで指揮をしたり、指揮者の伝記を読んだり、指揮者のビデオを観たりと、指揮者という職業が自分の中で膨らんでいた時期でもあって、指揮者を目指すことになりました。



三ツ橋敬子 Keiko Mitsuhashi

東京藝術大学および同大学院修了。ウィーン国立音楽大学とキジアーナ音楽院に留学。第10回A.ペドロッチ国際指揮者コンクールにて日本人として初めて優勝。第9回A.トスカニーニ国際指揮者コンクールにて女性初の受賞者として準優勝。あわせて聴衆賞も獲得。第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2015年1月、大阪交響楽団にて「カヴァッリーニ：ティンパニ協奏曲(世界初演)」、同年9月に群馬交響楽団創立70周年記念オペラ「蝶々夫人」、16年1月に三枝成彰作オペラ「Jr.バタフライ」を手掛け、好評を博した。



血の通った音楽を作りたい

— 東京藝術大学と大学院で学ばれた後、ヨーロッパに留学されました。

クラシック音楽では、ドイツ・オーストリア圏とイタリア圏の音楽が二つの大事な柱だと思います。イタリアにはいつかは行きたいという思いはありましたが、ドイツ語圏の音楽の大切さが身に染みていたので、まずは、あれだけ多くの音楽家が憧れて、音楽が大きく発展したウィーンという街に行くことにしたんです。

本当に良かったと思うのは、学校での勉強はもちろんです。ベートーヴェンが「第九」を完成した家とか、ここでシューベルトが生涯を終えたといった場所が街中であって、大作曲家たちの息吹を身近に感じられたことでした。

今でも私は、作曲家がどういう空気を吸って、どういう生活をしていたかを大切にしています。ウィーンは冬から春になる時にこんなに喜ばしいんだとか、そういうことを感じるのが、血の通った体温のある、色のある音楽を作っていく上で、とても大切なことだと思っています。

ウィーンの後、やっぱりアルプスを越えたくなって(笑)、イタリアにも留学しました。

— 現在のお住まいはヴェネツィアです。

以前から、西洋音楽をやる上で、西洋の視点を忘れないようにあちらに拠点を置こうと思っていました。ヴェネツィアは、いまだに車は走れなくて、歩くしかありません。昔からずっとその生活を続けている。そういう歴史的なところにウィーンと通じるものを感じます。

— 三ツ橋さんにとって、音楽とは。

仕事をしていく中で、だんだん自分と音楽が同化していく感覚があって、「音楽」は実体のあるなにかというより自分と一つになっているような気がします。音楽を通じて、次々に新しい出会いや、まったく違う分野のことを知る機会があったりして、常に新しい視点に立つことを迫られます。でもそれがかえって自分を成長させてくれる。音楽があって、ほんとうに良かったと思っています。

子どもたちとは真っ向勝負で

— 8月には、神奈川県立音楽堂で子どもたちに向けた「新☆夏休みオーケストラ」が開かれます。

子どもたちって、ものすごく正直じゃないですか。その空気感って、とてもダイレクトに伝わってくるんです。

三ツ橋敬子の「新☆夏休みオーケストラ!」みんなでワクワク! 編

2016年8月13日(土) 15:00 神奈川県立音楽堂

出演:三ツ橋敬子(指揮)、横坂 源(チェロ)、神奈川県フィルハーモニー管弦楽団

ホルスト:組曲「惑星」より木星

サン=サーンス:チェロ協奏曲第1番より

ストラヴィンスキー:バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)より 他

◎人気企画「指揮者体験コーナー」「ステージ上で聴いてみようコーナー」「楽器体験コーナー」

「終演後の交流会」などは今年も開催

◎8月10日(水)~13日(土)毎年好評の関連企画も開催!参加無料!

「バックステージ・ツアー&ミニ・コンサート」「音楽作りワークショップ」「ジュニア・スタッフ養成講座」など

小学生1000円 中学生1500円 一般3500円 ◎チケットかながわの他にびあ、イープラスでも販売

※未就学児入場不可

※託児:株式会社マザーズ 0120-788-222 (平日10:00~12:00,13:00~17:00) 公演1週間前までに要事前予約 託児料2000円

このよつなコンサートはこれまでに経験していますが、良い時は客席の熱量がすごく上がるし、その反対に冷めてしまつのも早いです。私たち演奏する側が、真つ向勝負で真剣にやっていたか、と、彼らは敏感だから、すぐに感じとってしまうんですね。

——今回のプログラムに込める想いとは。

コンサートでは、名曲を脈絡なく聴いてくださいというのではなく、いろいろな時代や国の音楽を選曲して聴いていただこうと思います。その中での子どもたちの気持ちと曲とが結び付くようなことも考えたいと思っています。

ヨーロッパの演奏会に行つて印象的なのは、皆さんがともりラックスして音楽を楽しんでいることです。小中学生の皆さんにもぜひ、そういう経験を、音楽を味わつてもらえたらと思います。

舞台と聴衆とが一緒になって会場の空気を作つていけるように、演奏に合わせて手拍子をしたり、「夏休みオーケストラ」の名物でもあります。子どもたちに舞台上がらつてもらつて音楽を身近に感じてもらうたり、また、一緒にいらしてくださる保護者の皆さんにもオーケストラ・サウンドの魅力を全身で感じていただけるようにとか、いくつかのコンセプト

トに沿つてコーナーを作つていこうと考えています。

鑑賞ではなく、楽しんでほしい

——コンサート前には、4日間に渡つて、バックステージ・ツアーや公開リハーサル、ワークショップ、スタッフ養成講座、指揮者との対話の広場など、さまざまな企画も用意されているそうですね。

子どもに何を見せたいとか、何をやらせたいとかよりも、彼らの気持ちを大切にしたいと思っています。子どもたちは、自分自身でいろんな興味を持っているんですよ。ですから、保護者の方たちも、かしまつてお勉強の一環として音楽鑑賞に連れて行くというのではなく、自分たちも楽しむつもりで、お子さんたちと一緒に来ていただきたいです。

音楽を身体で感じて、楽しいと思う。そういう経験は、ずっと心に残つていくものだと思います。子どもたちと演奏者が同じ空気の中で一緒になって、音楽を楽しんで過ごしたいと思います。

これから5年にわたるシリーズです。で、回を重ねていくごとに、子どもたちや保護者の方たちの考えをどんどん反映していければとも、思っています。

my hall myself

私にとつての神奈川県立音楽堂

ホワイエからホールの中に入った時、木に囲まれている、とても独特の癒される感じがあるんですね。その中で、音を聴くと、「なんていい音なんて心地良いんだろう」と。

ほんとうに、音の一つひとつがホールの中に生きていく感じがして、素敵だなあと感じます。「東洋一」といわれるほどの、美しい音響のホールの中で、響きに包まれる幸福感を心ゆくまで体感できる。素晴らしいホールだと思っています。

このホールで、夏休みに、子どもたちと一緒に楽しい企画ができることを、とてもうれしく思っています。

取材・文:川西真理 / 撮影:末武和人

WEB
+a!WEBでも「プレス」が読める!
artspress.jpWEB版だけのプラスα
コンテンツもいっぱい!

動画やインタビュー続編は...

このマークを
チェック!WEB
+a!



Parasophia 京都国際現代芸術祭2015

©Nobutada Omote

やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト 「日輪の翼」

横浜赤レンガ倉庫 イベント広場 (野外公演)

KAAT神奈川芸術劇場

翼のあるトレーラー～舞台が世界の「交通」であるために～

やなぎみわ (演出家・美術家)

我が舞台トレーラーは、2014年夏に台湾の虎尾という地方都市にある小さな工場で生まれ、盛大な爆竹音に送られて初めて公道に出た。高雄港から船に乗り横浜に到着、通関を経て日本に初上陸した。台湾では、荷台が舞台になっている700〜800台ものステージカーが国中を駆け巡る。歌謡ショーやカラオケで、寺の祭りや選挙運動を盛り上げる「貸し舞台」は、両ウイングが上がるだけでなく、油圧の力で屋根ごと持ち上がるスタイルで、内装には、けばけばしい電飾が光り輝く。

私にこの舞台トレーラーを日本に召喚せねばならないと決意させた物語。それは、中上健次の小説『日輪の翼』であった。舞台トレーラーと中上健次は、惹かれ合って必然のように出会ってしまったのである。

海と山の狭間にある熊野の被差別部落(路地)を舞台に、多くのサーガを紡ぎ続けた中上健次は、1982年に長編『日輪の翼』を書く。彼はこの作品によって、自らが紡ぐ物語そのものを、愛憎渦巻く(路地)から大胆に出奔させた。登場人物たちは最終目的地を考えることなく冷凍トレーラーに乗り込んで出発し、郷愁をかかえたまま全国の聖地を巡る。トレーラー

やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト 「日輪の翼」

2016年6月24日(金)～26日(日) 18:30
横浜赤レンガ倉庫 イベント広場(野外公演)

原作: 中上健次(『日輪の翼』、『紀伊物語』より「聖餐」、『千年の愉楽』)
演出・美術: やなぎみわ 音楽監督: 巻上公一 脚本: 山崎なし
全席自由(入場整理番号付き) 前売一般4000円 当日4500円 (ほか各種割引あり)



©Shen Chao-Liang



横浜トリエンナーレ2014 ©Miwa Yanagi STP.

に住む老婆たちは、生まれ暮らした地を懐かしんで語り、御詠歌を唱え、茶粥をすすする生活をして、行く先々に束の間の〈路地〉を作ってしまう。同郷の運転手の若者たちは、老婆たちの望むとおりに、伊勢へ、諏訪へ、恐山へ、そして皇居へとひた走る。終局のない巡礼を描いた摩訶不思議なロードノベルである。

旅の空で御詠歌をうたう老婆たちはアオイドスの系譜者だ。文盲の彼女たちの歌や言葉は、形を残さない「声」という表現によって歴史を召喚し伝承する。旅物語というものは、旅をしながら語るのが

正しい。ホメロスははじめとする古今東西の吟遊詩人や遊芸集団が、自ら放浪を続けながら放浪者について物語ってきたように。

そして、男たちの動力が老女たちの生活空間ごと牽引するトレイラーは「移動する母胎」「流浪する路地」である。閉鎖された舞台車の内部は、展開した時の輝きとは真逆の、暗くて狭い空間であり、物語を生み出す原初の場所、幻影となった〈路地〉そのものである。走行する時は男性、留まれば女性のように閉じた体を開く両性具有的なトランスフォームが、生死、貴

賤、聖俗、天地をひっくり返す装置なのだ。

旅路の先々に舞台車が停まって翼を開き、夜空の下に有翼日輪の姿を現して光り輝く時に、舞台の床の片隅にグラスを置いて中上健次が酒を飲んでくれたら、と願っていた。しかしこのトレイラーを舞台にすると決めた時から、永久に移動を続けるであろう、この空洞の中に、中上健次は早々と乗りこんでくれたのであった。

金鳥来たりて 天地交合う 夏芙蓉

文・やなぎみわ





KAATキッズ・プログラム2016 「わかったさんのクッキー」

KAAT神奈川芸術劇場

不思議な魅力にあふれた児童書「わかったさん」シリーズが
おいしいおかしいおしばいに！

誰もが一度は手にしたことのある児童書「わかったさん」(寺村輝夫著)シリーズ。人気シリーズ初の舞台化となる本作は、思わず笑顔がこぼれるユニークな言葉と身体、今までみたことがないユーモラスで色彩豊かな美術、ロックな音楽が劇中を彩り、子どもたちの感性を鋭く刺激する舞台。岡田利規、金氏徹平、前野健太という今をときめく気鋭のクリエイターが集い、不思議な魅力にあふれた世界を作り上げています。この舞台の魅力をこの3人のアーティストを中心に紹介します。

台本・演出を担うのは横浜出身で、KAAT神奈川芸術劇場とも縁の深い劇作家・演出家の岡田利規。現代日本の若者





KAATキッズ・プログラム2016

おいしいおかしいおしばい
「わかったさんのクッキー」

2016年7月16日(土)~21日(木)

KAAT神奈川芸術劇場〈中スタジオ〉

原作:寺村輝夫(「わかったさんのクッキー」/あかね書房刊)

台本・演出:岡田利規 美術:金氏徹平

劇中歌作曲:前野健太

全席自由 おとな3000円 こども(4歳~高校生)1000円

おやこチケット3500円

※神奈川では小田原・鎌倉での公演あり

を先鋭的に表現し、ゼロ年代の代表として海外でも高く評価される演劇カンパニー「チエルフィットユ」を主宰し、KAATでも毎年上演を重ねています。ユニークな身体表現とテキストで人気を集め、岡田以前・以後という文脈で語られるほどの注目作家です。岡田ならではの言葉と演出で、原作の魅力はそのままに、よりユーモラスで楽しい舞台の世界が作り上げられます。

舞台美術を手がけるのは、現代美術家の金氏徹平。プラスチック製品、人形、雑誌の切り抜きなどの日用品をカラージュしたり、積み重ねたりすることで、絶え間ない変化や異世界を創り出す独自の世界観が魅力で、国内のみならず、海

外でも数多く展覧会を催す作家です。今回の美術は、何に使われるのかわからない色も形もユニークなものたちがとこる狭しと舞台を彩っています。この美術が劇中でどう展開されるのか? それもこの舞台の大きな魅力の一つです。

最後に、新進気鋭のシンガーソングライター前野健太。彼が手がける劇中歌が、物語の大きな転換部を担っています。エッジのきいた音楽にのせて繰り広げられるパフォーマンスには、誰もが目を離せなくなることでしょう。

舞台「わかったさんのクッキー」は今夏、KAATを皮切りに全国13劇場で上演予定です。お楽しみに!

オルガン・プロムナード・コンサート

12:20～12:50 (12:00開場)

神奈川県民ホール(小ホール)

- Vol.349 4月22日(金) 柳澤文字 (終了)
 - Vol.350 6月24日(金) 青田絹江
 - Vol.351 7月22日(金) 小清水桃子
 - Vol.352 8月19日(金) 三原麻里
 - Vol.353 10月14日(金) 桑山彩子
 - Vol.354 11月25日(金) 福田真希
 - Vol.355 12月16日(金) 小川有紀
 - Vol.356 1月27日(金) 田上麻里
 - Vol.357 2月24日(金) 石丸由佳
 - Vol.358 3月24日(金) オーディション合格者
- 入場無料 全席自由 当日先着順入場



「皆さまお気軽にお越し下さい」と県民ホールオルガン・アドバイザーの荻野由美子氏

©Y.Yagyu



神奈川県民ホールのオルガンは、ドイツ・クライス社製。日本の公共ホールに初めて設置されたオルガンです

©ヒダキトモコ

オルガン・プロムナード・コンサート2016

神奈川県民ホール

お昼を楽しむ無料コンサート
バッハで過ごす1年を

平日のお昼、どのように過ごしていかすか？ 家族や友人、仕事仲間とのランチ、山下公園でのお散歩、どれも素敵ですね。でも時には芳醇なオルガンの響きに浸るのはいかがでしょうか。神奈川県民ホールでは、毎月1回パイプオルガンの無料コンサートを開催しています。

オルガンは、パイプに風を送って音を出す楽器で、設置する空間に合わせて特注で設計されています。

オルガンのパイプからは1本1本異なる響きが生まれます。それらを組み合わせ、豊かな音色をつくるのはオルガニストの大切な仕事の一つ。コンサート前、その楽器の特性や曲の特徴を考えながら、創意をこらしてこの作業をします。

どのパイプに風を送るかを決めるのは

鍵盤の役割です。ピアノと違って鍵盤を押す強さで音量が変わったりはしませんが、オルガニストは、鍵盤を押す・離すタイミングやスピードの微細な違いから音の立ち上がりや余韻を変化させて、時にリズムカルに時に優美に、音楽を表現していきます。

そんなオルガン演奏の妙技を、間近で見たいと思いませんか？

多くの音楽ホールでは、オルガンは客席や舞台上方の壁に設置されていて演奏者を遠目しか見ることができません。県民ホールのオルガンは舞台上にあり、また小ホールという舞台と客席が近い空間のおかげで、演奏を間近に見ることができる全国でも貴重な会場です。

県民ホールオルガン・アドバイザーの荻野由美子氏によれば、2016年度は全10回のプロムナード・コンサートでは、音楽の父バッハが残したオルガンの名曲から、毎回曲種の異なる1曲を盛り込んだプログラムをお届けすること。10公演全てを聴き通したら、あなたもちょっとした「バッハ通」になれるかも。

オルガニストは皆日本でも指折りの実力派揃い。3月にはオーデションで選ばれた気鋭が出演する予定です。

文・川西真理





Noism 劇的舞踊 vol.3 「ラ・バヤデール—幻の国」

KAAT神奈川芸術劇場

©藤山紀信

劇的舞踊「カルメン」再演(2016年)

2004年より、新潟を拠点に活動を続けるNoism。設立から10年以上経過した今なお、日本で唯一の劇場専属舞踊団として、芸術監督・金森穰率いるカンパニー活動と、舞踊家達の圧倒的な身体によって生み出される作品は国内外で高い評価を得ています。

2016年夏、Noismは金森穰演出による最新作、劇的舞踊「ラ・バヤデール—幻の国」を上演します。オペラやバレエなどで知られる物語を、舞踊家の確かな身体と重層的な物語構造でNoismオリジナルの物語として描く『劇的舞踊』シリーズ。第1作目の「ホフマン物語」(10年)、今年再演も行った「カルメン」(14年初演)に続き、新たに創作するのは、古典バレエの名作「ラ・バヤデール」を原案にした作品です。古代インドを舞台に、舞姫ニキヤと戦士ソロルの悲恋を描いた物語を、劇作家・演出家の平田オリザが大胆に翻案し、Noismへオリジナルの脚本を書きおろしました。

物語の舞台となるのは草原の国「マランシユ」。一人の老人の曖昧な記憶を辿るように描かれる「幻の国」は、政治、宗教、民族など様々な人々の対立を経て崩壊の一途を辿ります。とある国の崩壊の

物語を通して、記憶と歴史の中に存在したはずの人々の声は誰に届くのか。今を生きる私たちに問いかけます。

物語のメインキャラクター、踊り子ミランを演じるのは、Noismを代表する舞踊家、井関佐和子。空間・衣裳・木工美術は、建築家の田根剛、ISSEY MIYAKEデザイナー・宮前義之、家具作家・近藤正樹がそれぞれ担当。音楽はL・ミンクスの楽曲をベースに、音楽家の笠松泰洋が新たな音を加えます。

各分野のプロフェッショナルたちと共にジャンルを越えて挑む、舞踊×演劇の最新作にご期待ください。

WEB
+a!

Noism 劇的舞踊 vol.3

「ラ・バヤデール—幻の国」

2016年7月1日(金)~3日(日) KAAT神奈川芸術劇場(ホール)

演出:金森穰 脚本:平田オリザ 振付:Noism1

音楽:L・ミンクス「ラ・バヤデール」、笠松泰洋

空間:田根剛(DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS)

衣裳:宮前義之(ISSEY MIYAKE) 木工美術:近藤正樹

舞踊:Noism1 & Noism2

俳優:奥野兎士、貴島 豪、

たきいみき(SPAC-静岡県舞台芸術センター)

全席指定 一律5500円



オープンシアター 2013の神奈川県民ホールステージ見学から ©青柳 聡

オープンシアター 2016

KAAT神奈川芸術劇場

神奈川県民ホール

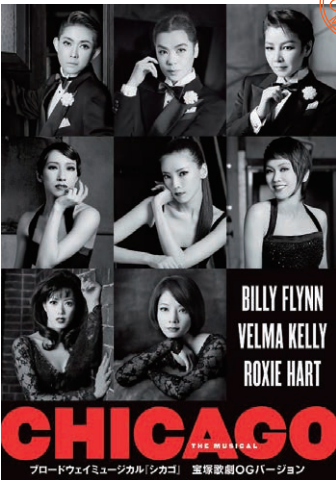
神奈川県立音楽堂

毎年好評の『オープンシアター』。今年はさらにパワーアップ。神奈川県民ホールでは演出つきのオーケストラコンサート「音楽物語…動物の謝肉祭」に、美術作家と動物を作るワークショップ、ドイツ製オルガンが間近に見られるコンサートなど。KAAT神奈川芸術劇場では展覧会「突然ミュージアム」。さらに紅葉ヶ丘の神奈川県立音楽堂では建築探検や音響体験など。劇場でたつぷり遊べるだけでなく3館を巡れば横浜名所散歩も可能。全部回ろうと思ったら1日では無理かも？横浜開港祭シーズン、ぜひご家族やお友だち同士でどうぞ。

2016年5月28日(土)・29日(日)
 展覧会「突然ミュージアム」は5月11日(水)～
 富田菜摘展「動物たちのカーニバル」は5月24日(火)～
 ※詳細は特設サイトまたはチケットかながわへ。
 特設サイト www.kanagawa-kenminhall.com/open/

ブロードウェイミュージカル「シカゴ」 宝塚歌劇OGバージョン

KAAT神奈川芸術劇場



2016年7月9日(土)～14日(木) 14:00
 〈ホール〉
 全席指定 S 12000円
 A 8000円 B 4000円
 ビリー・フリン(トリプルキャスト):
 峰さを理、麻路さき、姿月あさと
 ヴェルマ・ケリー(トリプルキャスト):
 和央ようか、湖月わたる、水夏希
 ロキシー・ハート(ダブルキャスト):
 朝海ひかる、大和悠河
 ※毎公演本編終了後にNY公演へ向かう
 出演者へのお見送りイベント開催予定。
 公式HP: www.chicago2016.jp
 シカゴ事務局 0570-08-9940
 (オペレーター対応 10:00～18:00)

2014年、宝塚歌劇団OGによる「世界初・全女性キャスト」の「シカゴ」が誕生しました。46公演で7万人を動員し、大好評のうちに幕を閉じたセンセーショナルな公演から2年、宝塚の元トップスターたちが主役を演じる「シカゴ」が帰ってきます！禁酒法時代のシカゴ。殺人事件の容疑者として監獄にいらながらマスコミを騒がし、注目を浴びた二人の悪女ヴェルマとロキシー。彼女たちの望みは無罪とスターの座。敏腕弁護士ビリーを味方につけて夢見た未来をつかみ取るのは、果たしてどちらか――？



日本・チェコ国際交流共同公演 糸あやつり人形芝居 「ゴースト」

KAAT神奈川芸術劇場

土で作られた「ゴースト」に、高僧が呪文を唱えお札を貼ると命が宿ります。しかし主人の言う事を聞かなくなり、凶暴化して世界を破壊しようとするように…。チェコのゴースト伝説をモチーフに、「物質と生命」をテーマにした人形劇です。日本の糸あやつり人形だけでなく、チェコの糸あやつり人形も登場します。

2016年
 6月5日(日)～12日
 〈大スタジオ〉
 全席指定
 一般5000円 学生2500円



©服部貴康

ミナモザ「彼らの敵」

KAAT神奈川芸術劇場

1991年、パキスタンで日本人大学生が強盗団に誘拐される事件が起きました。44日間監禁された服部貴康さんは、帰国後、週刊誌のカメラマンに追われ、激しいバッシングにさらされ、苦悩の日々を送ります。しかし、卒業後彼が選んだ道は、まさにその「週刊誌カメラマン」でした。第23回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した話題作を上演します。

2016年
 7月21日(木)～24日
 〈大スタジオ〉
 全席指定
 一般3500円 学生2000円
 高校生以下1000円
 KAme先行 5月21日(土)
 一般発売 5月22日(日)

第52回 神奈川県美術展 作品募集!

神奈川県民ホール



第51回神奈川県美術展
平面立体部門大賞
「Black Board」高島美幸



神奈川県美術展は、新進作家の育成と県民の美術文化の向上を目的に開催されてきた歴史ある公募展です。第52回の開催を迎え、更なる活性化をめざし、年齢・所属・国籍などを問わず全国から作品を公募します。皆さまの意欲と熱意あふれる作品のご応募をお待ちしています。

応募作品搬入《全国公募》

2016年7月16日(土)・17日(日) 10:00~16:00
(ギャラリー)

部門:平面立体、工芸、書、写真

※4月下旬から募集要項配布

横浜バレエフェスティバル2016 出演者募集! オーディション〈ファイナル〉公開

神奈川県民ホール



今年も、横浜バレエフェスティバルは10歳から20歳の素晴らしい才能を持った若きダンサーを発掘。合格者は、本公演の第1部「フレッシュヤーズガラ」へご出演いただけます。光る原石にお会いできる事を審査員一同楽しみにしております。7/22(金)13:00~の〈ファイナル〉は、一般公開します。若きダンサーが世界へ羽ばたく瞬間に立ち会い、審査員のコメントを聞くこともできます。

予選:2016年7月20日(水)・21日(木)

ファイナル:22日(金) 本公演:8月7日(日)
(大ホール)

※応募資格・応募方法等は、WEBをご覧ください。
※本公演のチケットで無料観覧できます。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 音楽堂シリーズ

神奈川県立音楽堂



©青柳聡



バロック音楽から現代音楽まで幅広い演奏目を音楽堂でお楽しみください。常任指揮者・川瀬賢太郎の発案による「ハイドンが必ず入る」プログラムの滋味をぜひご賞味ください。

第8回 2016年6月4日(土)

出演:キンポー・イシイ(指揮) 他

第9回 2016年7月9日(土)

出演:川瀬賢太郎(常任指揮者)、

郷古 廉(ヴァイオリン) 他

全席指定 一回券料金

S 4000円 A 2500円 B 1500円

神奈川フィル・チケットサービス

045-226-5107 (平日10:00~18:00)

第56回「音楽堂・おかあさんコーラス」 参加団体募集!

神奈川県立音楽堂



音楽堂のステージで、素敵なハーモニーを響かせてみませんか? 多くの女声コーラスグループの皆さまのご参加をお待ちしております! 所定の申込書(6/1(水)~音楽堂で配布)に必要事項をご記入の上、6/14(火)~7/1(金)の期間内に下記※へお送りください。(当日消印有効)

日程:2016年10月4日(火)~7日(金)

対象:神奈川県内に活動拠点をもつ

女声コーラスグループ

料金:参加費 一人800円

録音代 一団体1000円

※お問合せ・郵送先

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

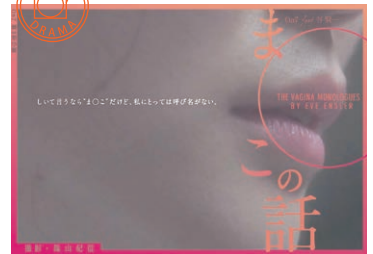
神奈川県立音楽堂内

「音楽堂・おかあさんコーラス」実行委員会事務局

Tel. 045-263-2567 (月休)

On7 feat. 谷 賢一 「ま〇この話~あるいはヴァギナ・モノローグス~」

KAAT 神奈川芸術劇場



On7 (オンナナ)とは、歴史ある新劇5劇団(青年座、文学座、俳優座、演劇集団円、テアトル・エコー)の同世代の女優7人による演劇ユニットです。第3回公演となる今回は、イブ・エンスラー作の「Vagina Monologues」。世界60カ国以上で上演された衝撃のモノローグ劇を、谷賢一による新訳・演出でお届けします。

2016年7月14日(木)~18日(月・祝)

(大スタジオ)

全席指定

一般前売3800円 学生3000円 他

横浜ポトシアター 説経「愛護の若」より“恋に狂ひて”

KAAT 神奈川芸術劇場



ダイナミックな語りと身体表現、哀調を帯びた歌と音楽。仮面の使用はもちろん、今回はきらびやかな人形たちの登場です。継母に恋い慕われた美少年の悲劇。今蘇る中世絵巻。2014年の初演、そして15年再演の好評に応えKAATに登場! 動かない人形、俳優たちによって時空を超え、見えない、聞こえない物語を浮上させます。

2016年7月1日(金)~10日(日)

(大スタジオ)

全席自由 前売

一般4000円 U24(24歳以下)3000円 他



知れば、
知るほど、
好きになる

演劇の小箱

演劇の起源は仮面劇

演劇の起源は何でしょうか。確かな資料として残っている最古の演劇は「ギリシャ悲劇」です。紀元前6世紀末に成立したといわれます。哲学者アリストテレスは著書「詩学」の中で、ギリシャ悲劇を分析し、世界初といわれるドラマ理論を書き残し、演劇の要素として、筋（プロット）、人物（キャラクター）、思想（テーマ）、語法（レクシス）、旋律（メロディ）、視覚的装飾（スペクトル）、そして精神浄化（カタルシス）などをあげています。まさに現代の演劇に欠かせないものばかりです。

それでは我が国の演劇の起源は

どうでしょうか。歴代室町将軍に愛された「能」でしょうか。さらに時代をさかのぼり、日本書記に書かれている「伎楽^{ぎがく}」でしょうか。

実は、ギリシャ悲劇、能、伎楽に共通することがあります。それは仮面劇であることです。太古から仮面を付けることで、人はその仮面が表す存在に変化すると信じられていました。また、演劇とは、本来の自分とは異なる人物や存在になりきり、別の物語を生きる、ということです。仮面と演劇は切っても切り離せないもの。だからこそ、洋の東西を問わず、演劇の起源は仮面劇なのでしょう。

*伎楽：大陸南部・呉国の王族が欽明天皇(540～572年)に伎楽調度品を献上し、推古天皇20年(612年)に伎楽自体が百濟から伝わる。ルーツは西域、ギリシャ、インドなど諸説がある。行道(行列して練り歩く:往路)、無言劇、行道(行列して戻る:復路)の三部構成。奈良の大仏開眼供養(752年)でも上演され、正倉院にその時使用された伎楽面が残されている。



楽器ミュージアム

オルガン

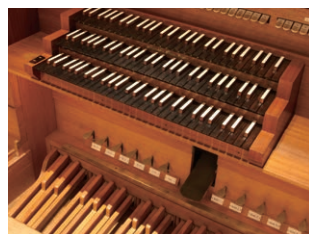
ヨーロッパの大聖堂を訪ねると、何本ものパイプがそびえるオルガンが眼にとまります。色彩に溢れるステンドグラスのように、豊かな響きで空間全体を包み込むオルガンの歴史はたいへん古く、紀元前にまで遡ります。

かつて日本ではオルガンを「風琴^{ふうきん}」と呼んでいましたが、その名の通り、パイプに空気を流して音を鳴らす、笛と同じ構造でできています。

オルガンの最大の特徴は多彩な音色です。色合いの異なる響きは、パイプの材質や形状の違いによって作られます。パイプはオルガン

の表側だけでなく内部にもびっしりと並んでいます。神奈川県民ホールに設置されたオルガンには30種類の音色があって、パイプは全部で2024本もあります。

オルガン奏者は、手鍵盤と足鍵盤を使って演奏しますが、さらにストップと呼ばれるつまみも操作して複数のパイプを組み合わせ、柔らかな弱音から華麗で力強い音まで響かせるのです。



©Hiroshi Togo



神奈川県民ホールのオルガン
(写真右上)手鍵盤と足鍵盤が並んだ演奏台
(写真左上)オルガン内部に並んだパイプ

©Hiroshi Togo



イラスト:遠藤裕喜奈

グスタフ・マーラー 「亡き子をしのぶ歌」

その作曲家は、孤独を愛する一匹狼でした。ボヘミア生まれのユダヤ人という根っからのアウトサイダー、グスタフ・マーラーは、37歳で音楽界の頂点たるオーストリア=ハンガリー帝国の都ウィーンの宮廷歌劇場（現ウィーン国立歌劇場）総監督に登りつめます。

高級アパルトメントに居を構え、夏には高級避暑地の湖畔で作曲にいそむ、誰もが羨む生活。そんな成功の中で、マーラーはドイツ・ロマン派の詩人リュッケルトが幼子二人を亡くした慟哭の詩「亡き子をしのぶ歌」に目を留めます。少年時代に兄弟14人のうち7人を亡くし、死を直視してきたマーラー。彼は、3編の悲劇的な詩に作曲を施した後、ひとまず作曲を中断します。

マーラーの幸運はなおも続きます。20歳ほど若い美貌と楽才に恵まれた社交界の華アルマと恋に落ち、結婚。すぐに二人の愛娘を授かります。幸福に浸っていた1904年夏、彼は再びリュッケルトの詩2編に作曲するのです。

人生の勝ち組となったマーラーは、なぜこの苦悩の詩と再度向き合ったのでしょうか。世紀末ウィーンに充満する

死と厭世感に促されてのことだったのか。あるいは、少年時代からの死への強迫観念だったのかもかもしれません。

「亡き子をしのぶ歌」初演から2年後の1907年、次々と不幸がマーラーを襲います。まるで曲をなぞるかのよう、最愛の長女マリア・アンナがわずか4歳で病死。それが原因なのか、マーラー自身も心臓病を患います。さらに、歌劇場との音楽的対立から、総監督を辞任。彼はウィーンを去ることとなります。悲劇は続きます。「不幸を呼ぶようなことはしないで」と「亡き子をしのぶ歌」作曲をやめるよう懇願していた妻アルマが、若い建築家グロピウスとの逢瀬を重ねていたのです。

1911年、少年時代に感染した心内膜炎が再発悪化したマーラーは、この世を去ります。彼はいま、生前の望み通り愛娘と同じウィーン郊外の墓地に眠っています。

グスタフ・マーラー Gustav Mahler (1860~1911)

19世紀末ウィーンを代表する作曲家。指揮者としても第一線で活躍。ロマン主義的な発想と、大管弦楽による色彩豊かな作風で、19世紀から20世紀へ音楽の橋渡しとなる作品を創作した。代表的な作品に、9曲の交響曲のほか「大地の歌」「さすらう若人の歌」など。

*ヴァルター・グロピウス(1883~1969):モダニズムを代表する建築家。後のバウハウス創設者。

山本理頭の
街は
舞台だ

©Sergio Pirrone



美術館前面は地元食材が評判のレストラン

住所:神奈川県横須賀市鴨居4-1
交通:京浜急行線「馬堀海岸」駅から京急バス「観音崎行／観音崎京急ホテル・横須賀美術館前」下車(約10分) 徒歩約2分
JR「横須賀」駅から京急バス「観音崎行／観音崎京急ホテル・横須賀美術館前」下車(約35分) 徒歩約2分



まるで映画のワンシーンの中にあるような空間

©大橋富夫

提供: 神奈川新聞社



美術館を中心にリゾート空間が広がる

建築を造ることで新たな環境を創っていく。
横須賀美術館
(設計: 山本理頭)

企画・監修: 山本理頭 建築家



©Jake Walters

1945年生まれ。71年、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了。東京大学生産技術研究所原研究室生。73年株式会社山本理頭設計工場を設立。2007年、横浜国立大学大学院教授に就任(11年)。11年、横浜国立大学大学院客員教授に就任(13年)。

多くの人は、建築は単体だと思ってる。オブジェとして、デザインが良いか悪いか。あるいは施設として、役に立つか立たないか。建築が環境に対してどれだけ貢献しているか、という視点がない。優れた建築には、周囲の環境そのものを際立たせ、魅力づける力がある。横須賀美術館は、三方を森に囲まれ、眼下に海が広がる観音崎公園の中にある。しかし、公園全体が山や海と一体の環境として認識できるようになったのは、美術館ができてからだ。以前は公園から海が見えず、ただの山の上の森にすぎなかった。ここは駅から遠く、便利な場所ではない。そこで滞在型美術館として構想した。公園の森を散歩する。近くには観音崎灯台がある。夏には海水浴もできる。美術館も作品をみるだけの場所ではない。全面ガラス張りのレストランから、浦賀水道を行き来する船を眺める。周囲の環境全体を堪能する。その拠点がこの美術館なのだ。訪れる人が単に観客ではなく、主人公となる舞台を造る。建築を造ること、新たな環境を創っていくのだ。(談)



かながわ
芸 ● 能
歳時記

門外不出だった「一人立ち三頭獅子舞」

三増の獅子舞

（愛甲郡愛川町／諏訪神社境内社 八坂神社／7月）



左から玉獅子、巻獅子、剣獅子

*出屋あひら 現地での呼称による。元来頭屋であったものが当屋となり、「あたりや」しよまれた。
*パンバ 老女の面を着けた舞手。
*ササラ 秋の稲穂が擦れ合う音を出す楽器。
*忌竹 神事の時、不浄を防ぎ清める場所を立てる竹。葉のついた青竹に、しめ縄を張り、紙垂を垂らす。

住所：神奈川県愛川郡愛川町三増587番地 諏訪神社（雨天時は三増児童館にて実施）
交通：小田急線「本厚木」駅から神奈中バス「上三増」行き「三増」下車すぐ
日時：7月20日前後の日曜日 道行 14:30頃～ 演舞 15:00頃～
お問い合わせ：愛川町郷土資料館 046-280-1050

三増の獅子舞は、愛川町三増諏訪神社境内社の八坂神社の祭礼（通称お天王様）で、毎年7月に、雨乞いと五穀豊穡を願い奉納されます。少なくとも300年にわたる歴史があるといわれ、県の無形民俗文化財に指定されています。

祭りの当日、舞手たちは当屋あひら（獅子宿）から天狗を先頭に、日月の旗、パンバ、獅子、笛師、花笠（ササラ）、歌師の順に、笛師が奏でる「道行の渡り拍子」にあわせ総勢約30名で神社まで行進します。

忌竹いみだけを巡らせた神社境内の舞場の中で、三頭の親子の獅子が舞います。父は巻獅子、母は玉獅子、子は剣獅子。それぞれが違った形の獅子頭を付け、胴に着けた太鼓を叩きながら舞う「一人立ち三頭獅子舞」です。優雅な舞が展開されます。

かつては、神社から一町（約110メートル）四方の外に足を踏み出してはならない門外不出の舞でした。



監修：神奈川県民俗芸能保存協会会長 石井一躬
協力：愛川町郷土資料館
写真提供：愛川町郷土資料館

more! カナガワ

神奈川近代文学館

企画展「没後30年 鮎川信夫と『荒地』展」
詩誌「荒地」の思想的中心として、戦後の詩壇に大きな足跡を残した詩人・評論家、鮎川信夫。戦争体験をもとに、現代社会を「荒地」として意識し、その克服をめざした業績を見つめ直す展覧会。

2016年5月28日（土）～
7月18日（月・祝）
（月曜休館 7/18除く）
一般400円（各種割引あり）
www.kanabun.or.jp
TEL. 045-622-6666



写真提供：感謝社

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

特別演奏会 名古屋フィル+神奈川フィル
スペシャル・ジョイント・コンサート

2016年6月25日（土）14:00
横浜みなとみらいホール
指揮：川瀬賢太郎（常任指揮者）
共演：菊池洋子（ピアノ）
名古屋フィルハーモニー交響楽団
モーツァルト：ピアノ協奏曲第21番
ショスタコフヴィチ：
交響曲第7番「レニングラード」
S 6000円 A 4500円 B 3000円（各種割引あり）
www.kanaphil.or.jp/
神奈川芸術協会 045-453-5080



©Yoshinori Kurosawa

神奈川県文化課

平成28年度かながわ伝統芸能ワークショップ
「日本舞踊に学ぶ和の作法」

日本舞踊を通じて和の作法やたしなみを楽しみ学び、伝統的生活文化の奥深さや所作を体験する小中学生対象ワークショップ。お子さまの夏休みの体験学習にいかがですか？

2016年7月21日（木）～23日（土）茅ヶ崎市総合体育館 / 28日（木）～30日（土）横浜賀市文化会館
8月4日（木）～6日（土）相模原市民会館 / 12日（金）～14日（日）県立青少年センター
参加費3000円（兄弟割引あり/保護者等同伴者無料）
www.pref.kanagawa.jp/cnt/p883536.html
TEL. 045-210-3808

My Roots My Favorites

井関佐和子 (舞踊家・Noism副芸術監督)

捧げられる人に出会えるか。人生の中でどれだけ真の「尊敬」と「愛」を



©榎山紀信

舞踊家の私の原点は、四つの出会いです。最初は小学生の時に教わった振付家、望月紀彦さん。踊ることの本質を丁寧に教えてくださいました。自分の内にある感情をどのように外の世界に繋げていくか…。今の私が「演じる」ことができるのは、この方のおかげです。

次にシルヴィ・ギエム。小さな頃からビデオを擦り切れるほど見ていました。彼女の踊りと言動に、プロ意識、舞台に立つ覚悟を感じ、「舞踊家としての在り方」に惹かれました。今、私が舞踊家として、時代性や舞踊家の立ち位置を考え、常に意識を高く持ち、決して諦めずに進むことができるのは、彼女のように、「恵まれた身体」だけではなく「考える力」を持った、尊敬できる女性がいたからです。

そしてNDT II時代に振付に来たヤコポ・ゴダーニ (フォーサイスカンパニー次期芸術監督)。最初は、彼の作品を踊ることが嫌で、人としても押しつける感じが本当に嫌いでした。彼の作品は私の見たことのない動きで埋め尽くされていました。「身体を極限まで使うんだ！ 全てを意識して！ もっともっと追求しろ！ 平面で動くな！」と怒鳴られていました。でも、

いつの間にか彼のエネルギーに同調し、コンプレックスだらけだった私の身体の可能性が、未知数に広がっていった。あの感覚は絶対に忘れません。

最後にNoism芸術監督、金森穰。私の舞踊家人生の半生はこの人ありきです。ルードラ時代からその名前は聞いていて、実際に出会ったのは21歳。初めて生で作品を見た時、「私はこの人の世界で踊る。踊り続けていこう」と思いました。それはあの振りがいいとか、世界観が素晴らしいという「理屈」ではなく、まさに「衝動」でした。人は人生の中でどれだけ真の「尊敬」と「愛」を捧げられる人に出会えるでしょう。金森穰、この振付家、演出家、舞踊家、人に出会えたことが、私の舞踊家としての、人としての生き方の全てです。 (談)

井関佐和子 Sawako Iseki

3歳よりクラシックバレエを始める。16歳で渡欧。ルードラ・ベジャール・ローザンヌにてモーリス・ベジャールらに師事。NDT (ネザール・ダンス・シアター) II、クルベルグ・バレエで20世紀を代表する振付家たちの作品を踊る。2004年日本初の劇場専属舞踊団Noismの結成メンバーとなり、金森穰作品では常に主要なパートを務め、日本を代表する舞踊家の一人として、高い評価と注目を集めている。

REVIEW

神奈川県民ホール オペラ シリーズ 2016

ワーグナー作曲

歌劇「さまよえるオランダ人」全3幕 [新制作]

2016年3月19日(土)・20日(日・祝) 神奈川県民ホール〈大ホール〉

指揮:沼尻竜典 演出:ミヒャエル・ハンペ 装置・衣裳:ヘニング・フォン・ギールケ

出演:[オランダ人] ロバート・ボーク/青山 貴 [ダーラント] 斉木健詞/妻屋秀和 [ゼンタ] 横山恵子/橋爪ゆか ほか



©青柳聡

県民ホール、びわ湖ホール、iichiko総合文化センターと、東京二期会をはじめ4芸術団体による共同制作オペラ。今回はワーグナー初期の傑作「さまよえるオランダ人」を上演しました。

演出にオペラ界の巨匠ミヒャエル・ハンペ、装置・衣裳にヘニング・フォン・ギールケを迎えた新制作の舞台は、実写とCGを駆使した最新の映像技術で荒れ狂う波や迫力ある幽霊船を出現させ、話題となりました。二期会合唱団、新国立劇場合唱団、藤原歌劇団合唱部による初の合同合唱や神奈川フィルの好演に鳴り止まぬ拍手とブラボーの嵐の中で神奈川公演を終了。海外からも批評家がかげつけ「世界でも観たことがない映像演出」とロンドンのオペラ専門誌“Opera Magazine”で高く評価されました。



お客様の声

リアルに見せるのが難しいオペラだが、まるで嵐の中の船に自分たちもいるような臨場感たっぷりの舞台に目をうばわれた。音楽も劇的な力にあふれていた。(40代男性)

大迫力の映像の力と最高水準の歌手の演奏、すばらしいです。2009年から来ていますがバランスは今まで一番。事前の勉強会や公開リハーサルなど有難い企画で感謝。(50代女性)

スタッフの熱気、まとまりが感じられて大変いい上演だった。オペラシリーズは有意義な企画なのでぜひ継続をお願いしたい。(60代男性)

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/株式会社浅岡装飾/アサヒビル株式会社/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス株式会社NHKアート/株式会社勝利庵/公益財団法人神奈川興結核予防会/神奈川県信用保証協会/株式会社神奈川汎文社/株式会社神奈川保健事業社/神谷コーポレーション株式会社カヤパシステムマシナリー株式会社/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社キョウエイ装備/株式会社KSP/株式会社合同通信/コトブキシーティング株式会社株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコムイースト横浜テレビ局/株式会社清光社/株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ/月島機械株式会社株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日成工事株式会社/日生商工株式会社/日総ブレイン株式会社/株式会社野毛印刷社パナソニックESエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニューグランド/一般社団法人本牧関連産業振興協会/丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商會/株式会社ユニコーン/株式会社横浜アーテクト/横浜新都市センター株式会社/横浜信用金庫弁護士法人横浜パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーシーソリューションズ(匿名:1社)

永年個人賛助会員 江田眞子/川村恒明 **個人賛助会員** 岩間良孝/大島正博/岡田博子/黒瀬博晴/橋本尚子(匿名:1名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 神奈川総合設備株式会社/神奈川ヨト自動車株式会社/崎陽軒/株式会社東芝/株式会社野毛印刷社/野村證券株式会社横浜支店/株式会社富士住建/三菱地所株式会社

(敬称略 2016年4月4日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ: 広報営業課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

劇場の達人

「グランド・バレエは2階席もおススメ!」

え・ユキナ



* コール・ド・バレエ……バレエの群舞。
* グランド・バレエ……ストーリー性のある、多幕の豪華なバレエ作品。3大バレエ(白鳥の湖、眠れる森の美女、くるみ割り人形)もグランド・バレエ。



Kame かながわメンバーズ **登録無料!**
KANAGAWA members チケットの先行予約が可能。メルマガ無料配信
登録は WEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここに 있습니다。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! artspress.jp

MAGCULNET 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
MAGカル ドットネット
MAGCUL.NET

ご支援のお願い



皆様のご支援が、
神奈川の文化と芸術を支える糧となります。

公益財団法人 神奈川芸術文化財団は、神奈川県民ホール、KAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県立音楽堂を運営し、音楽・演劇・オペラ・ミュージカル・ダンス・伝統芸能の公演、美術展などの幅広いプログラムをお届けしています。これからも神奈川県内の文化・芸術を振興するとともに、神奈川から文化の発信を行なってまいります。皆様のあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

賛助会員
(法人・個人)
年間を通じて財団の事業全般にご賛助。

個別の協賛
(法人・個人)
特定の公演等に対してご協賛。

広告スポンサー
主催公演のチラシや当日プログラム、「神奈川芸術プレス」などへの広告。

団体鑑賞
主催公演のチケットを福利厚生・販売促進等ツールとして。

※ 弊財団への賛助会費(寄附金)には、税制上の優遇措置があります。

詳細・お申込み・お問合せ | 公益財団法人神奈川芸術文化財団 広報営業課 〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1 県民ホール内
電話: 045 (633) 3760 FAX: 045 (641) 3184 www.kanagawa-arts.or.jp/support/

撮影: 本多康司

編集後記

「プレス」リニューアル版、いかがでしたか。毎回新鮮なアート情報、連続コラムをお届けしていきます。WEB版には動画も! ご愛読宜しくお願いします。(井) まだ手探りの部分もありますが、芸術を愛する気持ちは本物です。回を重ねるごとに毎号より良いものにしていきます。宜しくお願いします。(倉)